

■ 審査経過

2013年1月25日(金) 於 咲洲庁舎咲洲ホール

【審査委員長】

大坪 明

武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科教授

【審査委員】

末包 伸吾

関西大学環境都市工学部建築学科教授

加我 宏之

大阪府立大学大学院生命環境科学研究科准教授

井上 久実

井上久実設計室代表

前田 栄治

大阪府住宅まちづくり部住宅経営室住宅整備課長

平田 真

大阪府住宅まちづくり部公共建築室長

【1次審査】

審査委員が、各自全ての応募作品を確認し、評価できる作品(1人あたり10~13作品)に投票した。

◆1次審査の投票結果

	1部	2部	全体	作品番号
6票	1	0	1	1-52
5票	0	2	2	2-317、2-320
4票	1	2	3	1-11、2-105、2-336
3票	1	4	5	1-25、2-103、2-278、 2-292、2-316
2票	3	4	7	1-28、1-34、1-43、 2-55、2-218、2-287、 2-315、
1票	2	10	12	1-26、1-36、2-112、 2-195、2-200、2-223、 2-236、2-239、2-304、 2-312、2-318、2-342

◆得票1票のものについては、審査委員の推薦がないものについては落選とした。

◆2-312 に関しては、審査委員の推薦があったため、2次審査対象とした。

【2次審査】

◆2次審査の投票のため、1次審査での得票2票以上の作品18作品と、審査委員から推薦のあった1票の作品1作品の計19作品について、順に講評を行いながら、意見交換を行った。

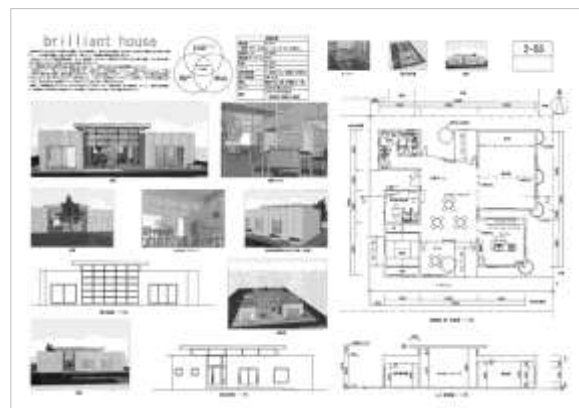
以下、それぞれの委員の意見を、発言順に記載する。

[2-312] 一津屋の交点



- ・風の流れについて色々考えているところを評価した。建物の軸をいたずらに振っているのではなく、風の方向を調べ、その結果によって建物の方向を決めている。細かいところでは、和室の押し入れの下の開口部から風の流れを取り入れられ、高窓からの風の出入も考えられている。
- ・3つのブロックに分けて高さを変化させているところも、建物のスケールを小さくするという意味ではないかと思う。
- ・残念な点として、立面での記載がないので詳細は分からないが、東側の道路に面する部分をもう少し積極的に活用してほしい。主要動線になる東側道路から集会室のアクティビティが見えるのではないかといいところもよい。

[2-55] brilliant house

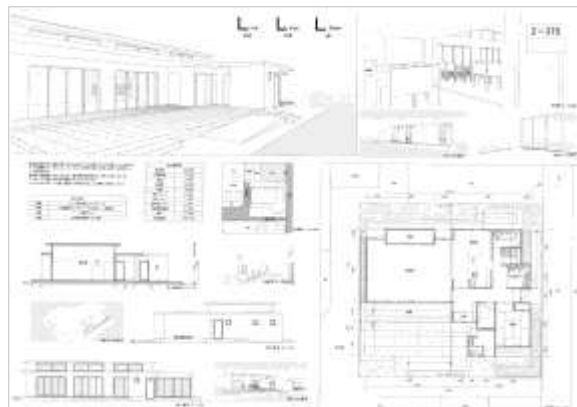


- ・集会所のボリュームをいくつかに分けているという点と、上下足の問題があるにしても、玄関ホールとふれあいリビングを兼ねていて、常時人がたまる場所になっているというところがよい。
- ・テラスをつかって人が来るようにしているので、空間が生きてくる。外観はちょっと硬いかもしれない。
- ・ふれあいリビングは下足利用という条件を設けている。今回の設計コンクールで、ふれあいリビングを下足利用にしたらどうなるか、というところも含めて公募した形である。実際、どんなものが出てくるかというところはあったが、このプランでのふれあいリビングは上履きなのか、下足なのかを読み取ることができない。他の作品で、上足のものも見受けられる。
- ・本プランで設計条件を満たしていないところとして、キッチンが独立していない点がある。

(集会所、下足利用についての意見交換)

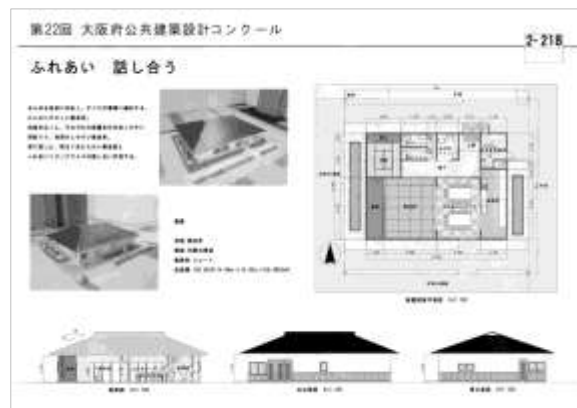
- ・一般的に、使われていないような集会所もあるが、府営住宅のふれあいリビングはよく使われるものなのか？
- ・少し前までの府営住宅では、集会所だけでは場所が足りずに活動ができないので、増築をするなどして、喫茶店などの活動をしていた。今は、初めからそういった活動ができるようにしようということで、新築の際にそういった設計をしている。ただ、ふれあいリビングの下足利用という条件は、今回初めて設けた。
- ・今回の上下足の考え方は難しかったと思う。和室以外は全部下足とした方が分かりやすいという考え方もあるが、掃除が大変など管理面の問題が生じてくることもある。
- ・今回、集会室は上履きで、ふれあいリビングは下足利用という条件になっており、その条件を忠実に描いている図面も見受けられる。
- ・集会所として、使われる時だけ鍵が開くというよりも、普段から町の人がふらっと来て、ふらっといられるというような使われ方もあると思う。そういう使われ方がいいのではないか。

[2-315] Long Large L Shape



- ・プランがきれいにまとまっている。この計画案の一つの骨子は、東側からアクセスすることと、北側の広場、南側の団地内通路とが、どのように関係しているかというところ。南側にオープンスペースをとって人を引き込んでいけるし、北側からも入っていける。ただ、東側にある団地への意識が少し薄いという感じはある。
- ・このプランも、上下足の履き替え線が玄関部分になっており、ふれあいリビングにどう対応するのかという課題はある。
- ・立面が端正できれいにできている。高窓から光をうまく取り入れられるように、断面的な工夫も見られる。
- ・環境への配慮という点で、自然採光をいかに活用するかということに対して、集会室を南面させることが一つの回答としてあるかと思った。そこに縁側を設け、コンセプトも Long、Large、L 型ということで明快なものがあり、そういった内容が形にうまく反映されている。
- ・残念ながら、東側のメイン動線に対して集会所の活動が表れない計画になっている。

[2-218] ふれあい 話し合う



- ・この作品も、南側のことを意識してうまく配置されていて、コンパクトにまとまっている。
- ・ふれあいリビングが広くとってあってよい。
- ・集会室の二室利用という点では、難しい配置になって

いるという課題がある。

- この計画では、東側の道を歩いている人から集会所の中の様子が分からない点が気になる。
- 入口が北側になっているので、住宅からのアプローチに関しては回りこまないといけない形になっている。
- 南側に集会室とふれあいリビングを配置すると、北側からのアプローチしかないのかというところはある。ふれあいリビングに南側から入る入口も一応確保できているので、アプローチの仕方として、一度北側の広場に目を向けるという北側がメインアプローチのプランもいいかと思った。
- このプランは、府営住宅の標準設計に非常に近い。
- 標準設計に近く、利用する際の利用者のストレスがないプランかと思う。
- 上下足の考え方は意識されている。

[2-287] Promenade～やすらぎの散歩道～

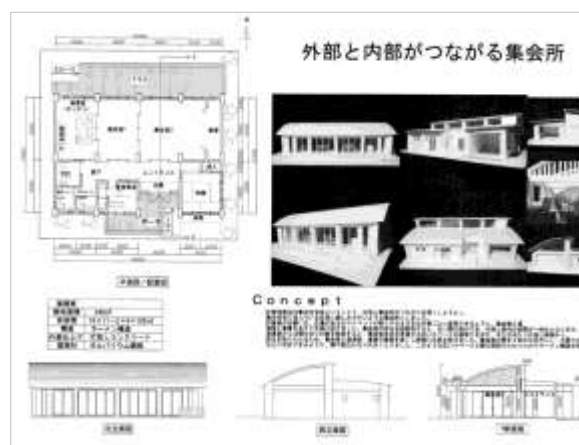


- 敷地との関係で評価した。歩道を歩いている時に、集会室のアクティビティが見えるということと、広場と一体化したオープンスペースをとり、集会所に人を呼び込んでくるという考え方はあるかなと。
- 柱と梁を出し、そこを中間利用的な空間としてアクティビティが外に少し出ていいよと表現している。そういったところが、ノーマライズになりがちな集会所に対して、使ってほしい、使っているよということを打ち出そうというところが良い。
- フレームを外に出すことで、夏場にここにテントを張る、ヨシズをかけて日陰を作るなど、そういったところでの活用もできるのではないかな。
- 広場と間の木の描き方の意識がいいなと感じた。ここが広場と一体になるんだよ、という感じが伝わってくる。
- 固い意見をいうとしたら、東側の梁が出ているところは、コスト面等から実現できるものか。
- 建設コスト自体はそれほど大きなコストアップではないかもしれないが、木は老朽化して取り替えないといけない可能性もあり、維持管理費がかかる問題点は

ある。

- 空間、領域をつくるというコンセプトということでは、木ではなく他の素材でも可能ではないか。
- 屋内のふれあいリビングと、気候のいい時には半屋外のところで日光を楽しみながら利用者が利用できるという点では、すごく生活が豊かになっていく案だと思う。そういった面では、非常に可能性の高い案である。
- 外に家具が描かれていたのはこのプランくらいじゃなかったかと思う。その意識は評価したい。

[2-103] 外部と内部がつながる集会所



- 非常に使いやすい案だと思う。東側に閉じているところに難があるが、広場に面してテラスがあり、集会室がある。テラスの上にはあまり長くはないけど、庇が張り出している。
- 南側の通路から入口をとっており、建替え中の団地の敷地と、東側にある団地の両方からのアプローチが考えられ、バランスが取れているプランである。
- 他にも同じようなプランはあったが、北側広場との一体性というところで、テラスを挟んで集会室があるというところが良い。また、非常にシンプルなプランでよくまとまっている。
- 採光にも配慮され、実現性の高い案だと思う。
- 集会室の電球を交換することを考えると、天井が高すぎるのではないかな。
- 屋根の形がきれい。
- 階高は高いが、この程度であればそれほどコストには影響しないのではないかな。

[2-292]みえる、ふれる、あつまる



- 東側のメイン動線に面して集会室が設けられていて、中のアクティビティが見えるというところを評価した。北側からの入口もあるが、強いていえば西側から入るのではなく、南側から入る方が良かったと思う。
- 今回の敷地は、東面、南面と北面の三面について考慮する必要がある。この三面に対してうまく対応しているのは、この配置プランだと思う。西側に駐車場があるので、そちら側にサービシ的な用途をまとめて、非常にうまくまとまっている。北側の外構に円弧のラインが描かれていて、広場の活動を受け止めるような意味があるのかと感じた。ただ、外構がタイル張りであるのはどうかと思った。
- 東面、北面、南面に向けてとすると、玄関が残りの位置で西側になってしまう。この玄関の位置が、団地全体の中心の集会所というところで、どうなのかと思う。
- 他の作品にもいくつかあったが、小規模な利用から大規模な利用へという使い方が例示されていて、それをプランに落とししたという、課題へのアプローチの示し方が良い。
- 手描きのパースも魅力的である。

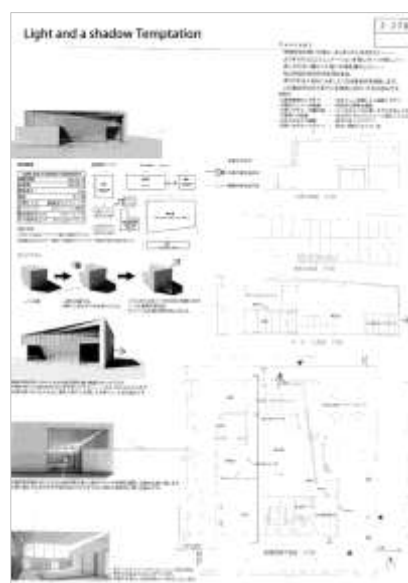
[2-316]通り土間のある集会所



- 東側には閉じているけれども、南と北に面していて、周囲の空間をうまく計画している。東側には壁があって閉鎖的なところもあるが、アプローチをうまくとって

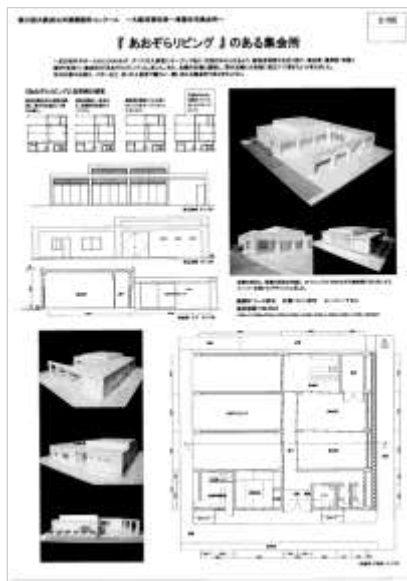
- る。
- 全体の構成、風のぬけ方が良く考えられている。
- 計画条件と照らし合わせると、東側に植栽を計画するという条件を満たしていない。
- 人の視点でパースを描いていて、心地よさげに感じる。
- 通風の提案が面白い。
- 東側の面が、愛想がないように感じる。
- 東面の壁面も、緑が計画されていると印象が変わるのではないかと。もう少し表現があればよかった。
- 壁は玄関の目隠し的なものだと思うのだが、東側に開くつもりがない計画だろう。

[2-278]Light and a shadow Temptation



- ふれあいリビングと広場をつなげるというところで、よくできている。ここで、こんにちは、と言いながら、スロープを歩いてエントランスに向かう。集会室のアクティビティも分かるという形になっていて良い。ただ、ある意味で、南側は捨てているところはある。
- ふれあいリビングと湯沸し室の位置関係が課題である。
- シャープでかなり洗練されており、建築を良く知っている人の作品だと感じる。
- 集会室の天井高のほとんどの部分が 5m になっていて、高すぎる。
- 天井は高いが、断面がよく考えられていて光がよく入る計画である。

[2-105]『あおぞらリビング』のある集会所

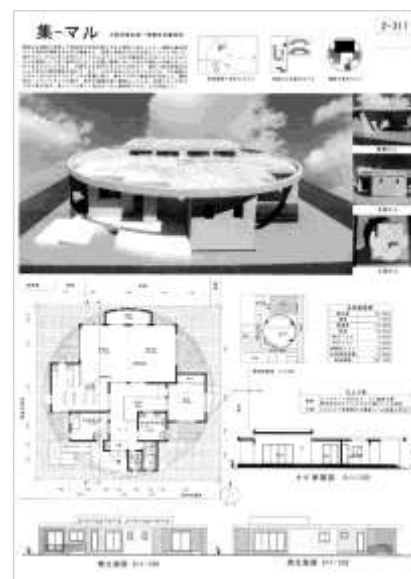


- ・あおぞらリビングというコンセプトと、フレームが出ているということが特徴的。強いて言えば、フレームまで梁が通っていて、2-287 の作品のようにテントやヨシズがかけられるようになっていたら良かったと思う。
- ・集会室には格子があって、東側の道路からは格子越しに集会室のアクティビティがのぞけるところがよい。
- ・リビングを外に置くことについて、ダイアグラムのなものは描いてあるけれども、その考え方を空間として表してほしかった。
- ・2-287 の作品と同じようなところがあるが、この作品は鉄筋コンクリートでつくられているので、建設費や維持管理を考えると、現実的にはやりやすいと思う。

- ・ふれあいリビングと広場をつなげるというところで、よくできている。土間があって、そこにふれあいリビングをつくっている。この作品のうまいところは、南北に通しているところ。東からも入ることができて、3つの動線を意識した中心に土間を置き、配置がうまい。給湯室の配置もよく考えられていて、プランニングがうまいと感じた。
- ・ルーバーがきれいである。
- ・半屋外的な空間も作られている。
- ・土間という中間領域をうまくふれあいリビングとして使っていて、南北の動線もきれいでよくまとまっている。ただ、実際に建てるとうと、集会所が使われていないときは、この土間の入口が閉まることになるのか。それとも、土間の開放性は、どこかにセキュリティラインを設けて確保することになるのか。
- ・使われ方としては、ふれあいリビングが週3日程度、他に集会室として使われるとき以外は、基本的に閉まっている状況になる。
- ・明らかな玄関はないが、土間が玄関ということだろう。
- ・こういった使い方は、利用者に趣旨を理解してもらえるとすごくうまく使いこなされそうだが、そうでなければ使い勝手が悪いと言われる可能性もある。
- ・通り庭になっていて開放性があり、集会所が開いているときは気持ちのいい空間になる。
- ・セキュリティラインの問題など、運営面の様々な課題があるだろうが、使い方についての可能性が非常に高い。

[2-317]集-マル

[2-336]土間ん中の賑わい



- ・全般的にプランがうまくまとまっている。丸という形が良いのかは分からないけども、努力を評価したい。逆に丸にすることで、東とか南とか北とか、苦労するところ

が消えた感じがある。ただ、実際建てるとなると、色々課題がある。

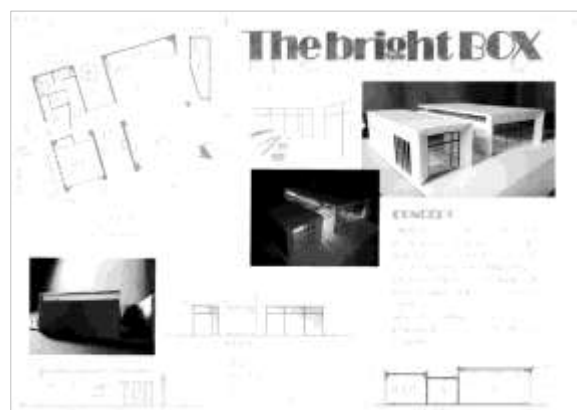
- ・歩道からの利用を考えると、敷地いっぱいに建てられていて、入口に行くには狭い隙間を通らないといけない。また、仮囲いがある間は玄関が使えないのではないかな。
- ・直方体の団地の中で、ここが拠点ですよということで、この円形の考え方はあると思う。この作品は周辺の古墳群とか、少し広域なレベルについて唯一読み取りがされていた。それを持ち込んできた上での案なのかなと感じた。少し課題はあるが、そういう努力は評価したい。広域なレベルから団地スケール、そこからこのプランまで、3段で落としこまれているというのは他の作品にはなく、よく考えられていた。
- ・倉庫の位置は、内側に入れるべきかと思う。
- ・2つの集会室の両方から利用ということから、ここに倉庫を置きたくなるのだろう。
- ・吹き抜けの中庭があるところなどで、うまく計画したらよかったのではないかな。中庭の配置が全体的なスケールに制限をかけていたのかもしれない。

[2-320]ツナガリと記憶の集会所



- ・四周ともにまんべんなく考えられていた点と、東側に設けられたエントランスを評価した。外部空間の描き込みというか、テラスを角に配置するなど、全体的に周辺をうまくとらえていると感じた。
- ・稼動間仕切りで仕切ったときに、窓のない集会室が出るところが気になる。採光は高窓があるのでとれるだろうが、景色が見えなくなる。
- ・部屋とテラスというか、デッキとの関係がうまく描かれている。広場とも繋がりが出てくる。
- ・家具のレイアウトとしては、ふれあいリビングの成立が難しい。実際に建てるとしたら、どうするかを考えないといけない。

[1-28] The bright BOX



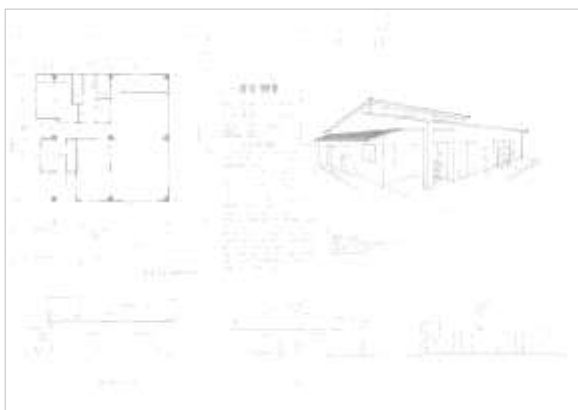
- ・これは2つのブロックに分けて、中央から入るという極めてシンプルなプランだということと、東側から集会所のアクティビティが見えるという点を評価した。
- ・北側の広場に対して閉じているところが課題である。
- ・建物を斜めに配置する意味が図面から読み取れない。

[1-43] 人と人・人と地域をつなげる集会所
地域参加への一歩、二歩、三歩！



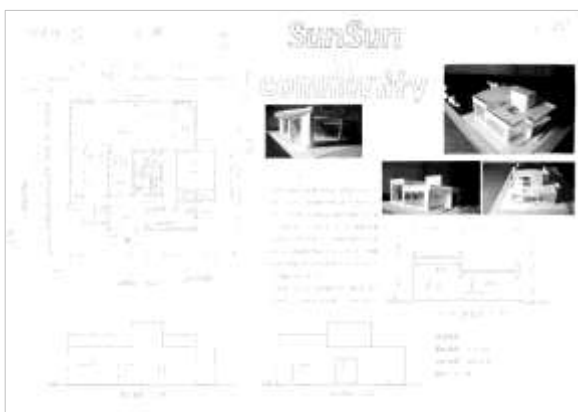
- ・ふれあいリビングをうまく作っている。ここまで応募要領の条件を読み込んで表現しているのは、この作品くらいだと思う。
- ・このソーラーパネルは、実際には敷地がほとんど陰になることもあって難しい。
- ・移動式の収納など、よく考えられている。ただ、移動家具を頻繁に動かすことは大変だと思う。

[1-34] meet



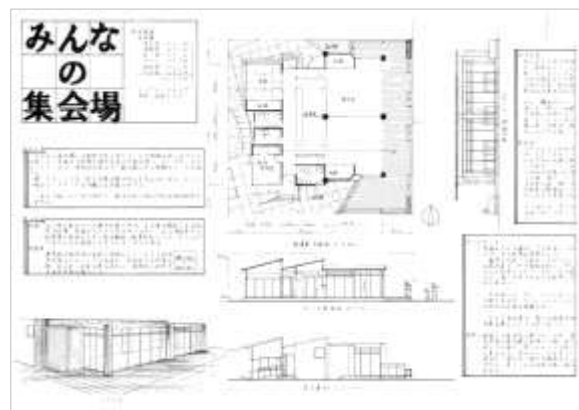
- プランが丁寧に考えられている。
- 南側と東側をメインに集会室を配置しているというところで、配置がきれいだなと思った。また、使いやすそうに感じる。
- 外構があまり表現されていない。

[1-25] SunSun☆community



- 中庭を配置してそこに向けてトイレを設けていることで、重要な部屋を全て外に向けることができるようにしている点を評価した。
- コンセプトにも、外から楽しきが見え、外に開くようなことが書いてあった。ガラス面が多く、維持管理の点では問題があるかもしれないが、中庭の発想がおもしろい。
- 北側の広場とも一体性がある。
- ふれあいリビングをうまくまとめている。便所の所だけなぜ階高が高いのかはよく分からない。

[1-11] みんなの集会場



- 周囲をまんべんなく、色々考えられている。湯沸かし室が大きすぎるが、ふれあいリビングとの兼ね合いで調整をしたらいいかと思う。
- 上下足の問題があるが、出入口付近の空間で処理することができると思う。
- パースがきれいに描かれている。
- 外構もきちんとデザインされている。
- 屋根のかけ方について、谷になるところがあるなど、雨水の処理や管理が難しいと思われる。

[1-52] ふれあいひろがれ



- 1部の作品の中では、バランスよくできている。
- モードの考え方は面白いが、もう少し考慮すべきところがある。
- 集会室の北側を全部デッキにしても良かったかもしれない。玄関ホールの横にデッキがあっても、中の機能との関係性がない。

◆意見交換を行った後、審査委員が各自、評価できる作品(1人あたり4~5作品)に投票した。

◆2 次審査の投票結果

	1 部	2 部	全体	作品番号
6 票	0	0	0	該当なし
5 票	0	1	1	2-336
4 票	0	1	1	2-320
3 票	1	1	2	1-11、2-317
2 票	2	4	6	1-25、1-52、2-103、 2-105、2-278、2-287
1 票	1	1	2	1-43、2-315

◆得票 2 票以上の作品が入賞作品点数の 10 点であり、1 部、2 部からそれぞれ 2 点以上の作品が入っていたため、得票 2 票以上の作品を入賞作品とした。1 票以下のものについては落選とした。

【最終審査】

◆入賞作品となった 10 点の作品について、各賞を決めるための議論を行った。
それぞれの委員の意見を、発言順に記載する。
※進行上の発言については○で表している。

(2-336 について)

- 2-336 について、投票数が多いため、グランプリとしてふさわしいかを検討する。
- 使い方に対して提案的な作品だと思う。4 票の 2-320 と比較しても、提案的な作品である。
 - グランプリとするのであれば、ルーバーなどについて、検討が必要だという注釈が必要。日射への配慮としても、他の方法はないのかななど。
 - 使い方も含めて、色々新しい試みとしては評価される。
 - 提案としては非常に良いけれども、ルーバーの計画がコストにどれだけ影響するかを考えないといけない。通常、集会所の外部の部材として木材は使っていない。

(2-320 について)

- 2-320 は壁式構造のようだが、これだけのものを壁でもたせるのはなかなか難しい。壁式構造だとすると、直感的には壁が足りないと思われる。構造的には考えないといけない。

○投票結果も踏まえて、グランプリ、準グランプリは 2-336、2-320 の 2 点から選ぶことでよいか。

[了承]

(2-336 について)

- 2-336 について、設計条件で何か問題がある点があるかを確認する。
- 下足スペースの考え方と、管理室の出入口が 1 つしかないという点が設計条件的には問題がある。
 - 管理室の出入口は実際の設計段階で調整できるだろう。
 - 下足スペースの考え方については、入口がどこなのかということが分からない。例えば給湯室などは、上下足どちらなのかなど、分からないスペースがある。
 - 入口がどこなのか、というところがこの提案のポイントでもあるが、セキュリティ面では課題。

○議論の結果、特に大きな問題もないと思われるため、2-336 をグランプリ、2-320 を準グランプリとすることでよいか。

[グランプリ、準グランプリについて了承]

○優秀賞の 2 点は 3 票の 1-11、2-317 でよいか。

- 2-317 について、この作品を優秀作品としていいのか、個人的には疑問がある。今回、応募要領で環境への配慮や、コストのことを条件としてあげている。その中で、この作品はすごく魅力的ではあるが、奨励賞のようなイメージで、優秀作品としていいのかと考えている。
- 円形であることに対してであれば、丸いのは屋根だけなので、特に問題ではないと思われる。
- 強いてポジティブに考えると、丸いところを庇として考えることも不可能ではない。
- 他の作品が応募要領の設計条件を読み取って、今回の府営住宅の集会所に真摯にアプローチされているので、その点が気になったが、そういうことであれば納得した。
- この作品は円形が目立ってはいるけれども、プランニングもかなりまじめに考えられている。

[優秀作品について了承]

○2 票の 6 作品について、佳作と奨励賞に分けるということでよいか。

(佳作と奨励賞について)

- 2 票の作品の中で、2-105、2-278 がトライアル的な側面があるため、奨励賞向きではないか。他の作品は割とプランニングがしっかりしているものになっている。
- 賞の意味として、佳作は優秀作品には届かないけれども真面目に取り組んでいるものと、奨励賞はそういった中で、造形性や提案性を重視しているものという位置付けと考えている。それぞれ 3 作品ということにこだわら

ず、賞の意味合いを大事にしたい。佳作4点、奨励賞2点でもいいのではないかと。

○佳作3点、奨励賞3点程度となっているが、佳作4点、奨励賞2点となってもよいか。事務局へ確認する。(事務局)問題ない。

○佳作4点、奨励賞2点で問題がなければ、2-105、2-278を奨励賞、他の作品を佳作とすることでよいか。

(1-25について)

- ・1-25について気になる点で、SunSun☆communityというコンセプトに対して、集会室を北側に配置し、中庭で光を取り入れているプランになっている。ただ、一番サンサンとしているのは南側だと思われる。中庭は緑も育ちにくく、このコンセプトを素直に受けとると、集会室は南に配置するべきで、コンセプトと異なる配置ではないか。
- ・サンサンという意味合いをどうとるかということで、サンというのは直射日光だけではなく、天空光もある。光も十分入る計画であるし、むしろ直射日光でないほうがいいという考え方もあり得るかもしれない。
- ・佳作のレベルまでできているかと少し疑問に思ったが、納得した。

[佳作・奨励賞について了承]

(グランプリ作品について)

- ・この作品は、コスト的な問題など課題はあるかと思うが、新しい提案であり、コンクールをやった意味がある。
- ・木のルーバー部分が提案通りできるのかというところは課題。
- ・必ずしも木でなくとも、ポリカのような、既成の素材を組み合わせてつくっても効果は同じだと思われる。素材感が大事ということはまた別の意味ではあるが。
- ・素材感に訴えるような作品であれば、グランプリと準グランプリが逆の方がいいのではないかとも思う。
- ・利用者に、土間の考え方が受け入れられるのかという点も課題である。ふれあいリビングは下足であるため、最低限、ふれあいリビングは土間としてできるだろう。新しい提案として受け入れてほしいところはあるが、最低限ふれあいリビングの空間が成立すればいいのではないかと。
- ・コンセプトの中で、屋内だけでの集会室利用だけでなく、半屋外、屋外とをうまく使っているということが作品に表れている。今回応募のあった作品のアイデアの中で、一番洗練された提案で、グランプリふさわしい。
- ・今までの学習の中から形にすることもすごく大事。さら

に、こういう使い方があるのではないかとという提案がまた大事だと思う。

審査結果

入賞作品

グランプリ	2-336 山崎 智紀 日本理工情報専門学校 2年
準グランプリ	2-320 平井 耀介 大阪建設専門学校 2年
優秀作品賞	1-11 栗野 瑞基 大阪市立都島工業高等学校 3年
優秀作品賞	2-317 宿野 綺秀 大阪建設専門学校 2年
佳作	1-25 藤野 巧巳 大阪市立都島工業高等学校 2年
佳作	1-52 田中 伸明 大阪府立西野田工科高等学校 3年
佳作	2-103 榎本 貴之 修成建設専門学校 1年
佳作	2-287 松本 一生 大阪府立芦原高等職業技術専門校
奨励賞	2-105 末永 かつら 修成建設専門学校 1年
奨励賞	20278 菊川 勇士・谷川 勇弥 中央工学校 OSAKA1年

2次審査対象作品

1-28 安次富 墨	大阪市立都島工業高等学校 2年
1-34 野村 哲朗	大阪市立都島工業高等学校 2年
1-43 久保 有沙	堺市立堺高等学校 2年
2-55 小堀 雅也	大阪工業技術専門学校 2年
2-218 前田 一樹	大阪工業技術専門学校 1年
2-292 北園 博規	大阪工業技術専門学校 1年
2-312 徳原 俊樹	大阪建設専門学校 2年
2-315 焦 一眞	大阪建設専門学校 2年
2-316 曹 翔大・二岡 建光	大阪建設専門学校 2年